Newsletter　え～ごがく No.59　日本英語学会

2013 年 8 月 25 日発行

今回の紙面から（ページと内容）

1. 会長就任にあたって
2. 第31回大会のお知らせ
3. 第7回国際春季フォーラムのご案内
理事会より
4. 編集委員会より
6. 大会運営委員会より
広報委員会より
学会賞委員会より
2012年度会計報告
7. 2013年度予算計画
8. *JELS*の配布方法の変更について
言語系学会連合について
事務局より

会長就任にあたって

会長　大庭幸男

会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より学会の諸活動にご協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。

さて、昨年末に行われました会長選挙で会長に選出されました。まさに青天の霹靂で私自身たいへん驚いていますが、学会の発展のため、また、会員の皆様のお役にたつように、精一杯務めたいと存じますので、これまで同様にご支援とご協力を賜りますようにお願い申し上げます。

日本英語学会は、1983年11月に上智大学において設立大会を開催して以来、昨年度で創立30周年を迎えました。本学会では、それを記念して、稲田俊明前会長の指揮の下、第30回記念大会が慶応義塾大学で開催されました。記念大会では、通常の研究発表、ワークショップ、スチューデント・ワークショップに加えて、海外から言語学者3名を招聘して公開特別シンポジウムと特別ワークショップが開催され、大勢の参加者をえて盛会裡に終わりました。

周知のように、本学会は、英語学および言語理論研究の発展に寄与することを目指して設立されました。発足当時は会員数が約780名でしたが、現在は約1,550名になり、大きく発展して参りました。それは、偏に本学会の歴代の会長の指導力、理事・評議員、各種委員会委員、そして会員の皆様のご支援とご協力の賜物だと思います。

ここで30年間を簡単に振り返ってみますと、本学会ではこれまで4つの柱、すなわち、「拡充・充実化」「国際化」「電子化」「顕彰制度の充実化」を中心に、発展と活性化が図られてきました。

まず、「拡充・充実化」については、大会関係において*Conference Handbook*の発行（1988年度）、ワークショップの導入（1991年度）、大会予稿集*JELS*の刊行（1995年度）、スチューデント・ワークショップの導入（2002年度）が行われました。学会誌*English Linguistics*（*EL*）関係では、年1回から年2回の発行（1999年度）、Advisory Committeeとして約40名の海外研究者の導入（2002年度）が行われました。委員会関係では、従来の編集委員会、大会運営委員会に加えて、広報委員会の設置（2009年度）が行われました。なお、同委員会では、現在、英語版を含めてホームページの刷新作業が行われています。

また、「国際化」については、国際春季フォーラムの開催（2008年度）、韓国英語学会との交流協定（2012年度）が行われました。今年度は、昨年度と同様に、韓国英語学会から2名の研究者を招聘し、春期フォーラムで発表していただきました。また、本学会からも2名の研究者を韓国英語学会に派遣し、発表していただきました。このような招聘と派遣の形態は来年度以降も継続されるものと思います。

さらに、「電子化」については、従来の学会誌*EL*と併せてCD-ROM版の配布（2004年度）、発行後4年経た学会誌*EL*のバックナンバー（第1巻から第22巻第1号）のアーカイブ化と電子公開（2009年度）が行われました。このアーカイブ化等の作業はその後も継続的に行われています。なお、今年度より発行後2年経た*EL*のバックナンバーがアーカイブ化され、公開されるとともに、従来の紙媒体の*JELS*がCD-ROM版化されます。

最後に、「顕彰制度の充実化」については、日本英語学会新人賞および日本英語学会特別賞の設置（2003年度）、日本英語学会特別功労賞の設置

（2007年度）、日本英語学会賞の設置（2008年度）、*EL*研究奨励賞の設置（2010年度）が行われました。その後、日本英語学会新人賞と日本英語学会賞の見直しが行われ、2010年度に応募規定を改訂した日本英語学会新人賞、日本英語学会賞（著書）、日本英語学会賞（論文）が新たに設置されました。

このように、本学会ではこの30年間、発展と活性化に向けて「拡充・充実化」「国際化」「電子化」「顕彰制度の充実化」が図られてきました。今後はこれら4本柱について見直すべきところは見直し、また不足しているところは補足し、学会を発展・充実させることが必要だと思います。

ところで、現在、懸念されることが2つあります。1つは、学会員数がこの数年増えていないことです。20周年を迎えた時には、約1,700名の会員数がありましたが，現在の会員数は約1,550名です。この10年間、さまざまな学会が創設され、会員数の増加が期待できない状況にあることは承知していますが、それでも、会員数を増やすための策を講じる必要性を感じています。特に、多くの大学院生や若手研究者に本学会の会員になっていただければ、学会全体が活気づき、上記4つの柱の有効性もさらに発揮されるだろうと思います。

もう1つは、例年採択されていた科研費（研究成果公開促進費）が今年度、不採択になったことに関係があります。不採択の原因は分かりませんが、10年ほど前、言語学分野に英語学という細目が認められたにもかかわらず、現在，基盤研究（A）と（B）の申請数が他の学会に比べて極端に少ないことに、間接的であれ関係があるのではないかと思われます。この大型科研は申請件数が多ければ多いほど、採用枠が広くなります。それと同時に、申請件数が多ければ、学会全体が活発に研究活動をしていると評価され、学会誌刊行費補助の科研費も採択されやすいのではないかと思われます。今後、本学会の発展のためには、英語学で大型科研への申請件数を増加させることも視野に入れて活動する必要があるだろうと思います。

最後になりましたが、前事務局の暖かいご支援の下、また西岡事務局長には8月末日まで留任していただいたお陰で、今年4月から新事務局を無事スタートさせることができました。不慣れのため会員の皆様には何かとご迷惑をおかけすることと存じますが、今後ともご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第 31 回大会のお知らせ

日時：2013 年 11 月 9 日（土）～10 日（日）
場所：福岡大学 七隈キャンパス A 棟
（〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈 8−19−1）

日本英語学会第 31 回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムは第 1 日の午後と第 2 日の午後に予定しております。

11 月 9 日（土）
9:30～11:45：ワークショップ
12:00～12:50：総会
13:00～14:55：研究発表
15:15～18:00：公開シンポジウム
18:20～19:50：懇親会
11 月 10 日（日）
9:30～12:45：研究発表
13:45～16:30：シンポジウム

今年度は、6 つのワークショップ（うち 1 つはスチューデント・ワークショップ）、44 の研究発表と 5 つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。（［　］内は司会者、（　）内は講師と題目を示します。）

A.「英語シノニムと辞書記述」(公開) [井上永幸]（田中 実:「どのような方法で記述するか」，友繁義典:「どのようなシノニムのどのような情報が必要か」，梅咲敦子:「どのように情報を得るか」，井上永幸:「シノニム記述の実態と改善案」）

B.「語彙意味論の新たな可能性を探って」 [由本陽子]（小野尚之:「様態・結果相補性の仮説と合成性」，丸田忠雄:「評価形容詞の語彙意味論を巡って」，中谷健太郎:「心理言語学の方法と語彙意味論」．コメンテーターとして竹沢幸一氏）

C.「形態的一致現象と格現象との関連：比較統語論的観点からの再考」[浦 啓之]（平岩 健:「DP の分解と Case /Agreement」，浦 啓之:「格≠一致？：Disagreement between Case and Agreement」，渡辺 明:「DP の内と外」）

D.「ヴォイスの対照研究はどこまで進んだのか、そしてどこに向かうのか―研究史の再評価と今後の展望にむけて―」[西村義樹]（鷲尾龍一:「対

照言語学の近代と現代」，西村義樹：「日英語のヴォイス現象：認知文法の視点」，本多 啓：「中間構文の英日対照とその理論的な意義」）

E.「接続現象―対照研究からみえてくるもの―」
[西光義弘]（西光義弘：「「城崎にて」の原文と英訳 8 種による接続表現の日英対照研究」，井上逸兵:「日本映画英語字幕訳コーパスにみる英語のセツゾク・日本語のセツゾク」，鍋島弘治朗：「ゼロ接続としての文脈」，石黒 圭:「日本語の独話における接続詞「で」の機能」）

公開シンポジウム「英語シノニムと辞書記述」については、非会員でも無料で参加できます。

本大会の詳しい内容につきましては、同封の「大会資料・プログラム」および 9 月以降日本英語学会ホームページに掲載されます大会における発表要旨とワークショッププログラム（ともにダウンロード可能）をご覧下さい。

◇　大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費（2,000 円）をいただき *Conference Handbook* と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意下さい（公開シンポジウムのみ参加費と名札なしで入室できます）。また、11 月 9 日（土）の受付は 11 時 30 分より始めますのでお早めにお出かけ下さい。

◇　総会について

9 日（土）の 12:00 より 12:50 まで総会を開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、事務局からの報告、などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

◇　懇親会について

9 日（土）18:20 より 19:50 まで、学内の中央図書館 1 階食堂「陽だまり」において会員懇親会（会費 4,000 円（学生 3,000 円））を催します。是非ご参加下さい。

◇　証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封の上、下記までご請求下さい。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものをお送りいただければ幸いです。
〒113-0023 東京都文京区向丘 1-5-2　開拓社内
日本英語学会事務局

◇　学内食堂の利用時間

9 日（土）は学内の食堂は営業しています。10 日（日）は懇親会場予定の中央図書館 1 階食堂「陽だまり」を 11 時 45 分から 13 時 45 分までの 2 時間だけ営業していただきます（メニューは定食 1 種類と麺類に限定）。食堂の場所につきましては同封の大会資料・プログラムをご覧下さい。

第7回国際春季フォーラムのご案内

第7回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。
日時：2014年4月19日（土）・20日（日）
場所：同志社大学 今出川キャンパス
（〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 ）
研究発表とワークショップの募集につきましては、同封の案内をご覧下さい。

理事会より

○　会計

2012 年度収支決算書および 2013 年度予算計画書が、6 月 23 日開催の第 66 回理事会、ならびに理事会メール会議にて審議の結果、承認されました。

なお、2012 年度収支決算書（2013年4月1日現在）は、監事の米山三明氏と八木孝夫氏によって監査が行われ、理事会において正当であると報告されました。

○　役員の異動

会長（退任）

2010 年 4 月より 3 年の任期を終えられ、稲田俊明氏が 2013 年 3 月 31 日付けで会長を退任されました。

監事（退任）

萩原裕子氏が 2013 年 3 月 31 日付で監事を退任されました。

広報委員長（退任）

大室剛志氏が 2013 年 3 月 31 日付で広報委員長

を退任されました。

学会賞委員会委員長（退任）

廣瀬幸生氏が 2013 年 3 月 31 日付で学会賞委員会委員長を退任されました。

ご退任のみなさま方、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

会長（新任）

2013 年 4 月 1 日付けで大庭幸男氏（関西外国語大学）が会長に就任されました。

評議員（新任）

青山　隆氏に代わり、2013 年 4 月 1 日付で、岡田禎之氏（大阪大学）が評議員に就任されました。任期は、青山氏の残任期間の 2014 年 3 月 31 日までです。

監事（新任）

2013 年 4 月 1 日付で、八木孝夫氏（東京学芸大学）が監事に就任されました。任期は、2016 年 3 月 31 日までの 3 年間です。

広報委員長（新任）

2013 年 4 月 1 日付で、天沼　実氏（宇都宮大学）が広報委員長に就任されました。任期は、2015 年 3 月 31 日までです。

学会賞委員会委員長（新任）

2013 年 4 月 1 日付で、高見健一氏（学習院大学）が、学会賞委員会委員長に就任されました。任期は、2014 年 3 月 31 日までです。

○　学会賞検討ワーキング委員会

学会賞関係規定を見直すために、以下のような任期と構成でワーキング委員会を設立することが理事会メール会議により承認されました。

任期：2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

構成：今西典子氏（座長）（2011 年度学会賞委員会委員長）、廣瀬幸生氏（2012 年度学会賞委員会委員長）、高見健一氏（2013 年度学会賞委員会委員長）、池内正幸氏（2013 年度学会賞委員会副委員長）、伊藤たかね氏（編集委員長）、加賀信広氏（編集副委員長）、岡崎正男氏（前事務局長）、西岡宣明氏（事務局長）、岡田禎之氏（事務局長補佐、次期事務局長）

本委員会での検討結果に基づく新たな学会賞関係規定は、2014 年 2 月末に発行予定の『え～ごがく』60 号、ならびに日本英語学会ホームページにてお知らせいたします。

○　第32回大会（2014年度）の開催校

来年度の大会は、2014年11月8日、9日に学習院大学にて開催される予定です。詳細については、2014年2月末に発行予定の『え～ごがく』60号にてお知らせいたします。

○　ELSOKとの交流について

『え～ごがく』58号でお知らせしましたように、2013年4月27日、28日に開催しました第6回国際春季フォーラムに韓国英語学会（ELSOK）から、Gwang-Yoon Goh 氏 (Yonsei University) と Kwang-sup Kim 氏(Hankuk University of Foreign Studies)をお招きし、2013 年7 月3 日～6 日に開催されましたELSOK主催の国際学会（2013 International Conference on English Linguistics）で、日本英語学会から外池滋生氏（青山学院大学）と田中智之氏（名古屋大学）の招聘発表が行われました。また、交流の2年目に入り、今後のさらなる安定的な交流を行うために、①お互いの派遣には、謝金、交通費などは支払わない、②お互いに派遣する数は原則として2名まで、またその形態（講演、研究発表）に関しては柔軟に対応する旨の補則に調印し、昨年調印した合意書に正式に加えました。詳細につきましては、学会ホームページをご覧ください。

○　訃報

本学会の評議員の青山　隆先生が、2012年9月23日にご逝去なされました。日本英語学会へのご貢献に感謝しますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

編集委員会より

◇　第 16 期編集委員会（*EL* 31～32 巻編集担当）新任編集委員について

編集委員会規定（2009 年 4 月 1 日施行）に従い、第 16 期編集委員会の新任委員が以下のように選出されました。新任委員の 1 期目の任期は 2013 年 7 月 1 日から 2015 年 9 月 30 日です。第 15 期編集委員会から引き継ぐ 2 期目の委員の任期は 2013 年 10 月 1 日から 2015 年 9 月 30 日です。2013 年 7 月から 9 月までの期間は、第 15 期編集委員会と第 16 期編集委員会の引継ぎ移行期となり、分担協力

して *EL* の編集業務が行われます。

＜新任委員 11 名＞　菊地朗氏（東北大学）、内堀朝子氏（日本大学）、石井透氏（明治大学）、吉村紀子氏（静岡県立大学）、堀江薫氏（名古屋大学）、川崎典子氏（東京女子大学）、福島一彦氏（関西外国語大学）、三間英樹氏（神戸市外国語大学）、小倉美知子氏（慶應義塾大学）、杉崎鉱司氏（三重大学）、藤田耕司氏（京都大学）

＜2 期目の委員 13 名＞　奥聡氏（北海道大学）、杉岡洋子氏（慶應義塾大学）、Christopher Tancredi 氏（慶應義塾大学）、越智正男氏（大阪大学）、加賀信広氏（筑波大学）、長谷川宏氏（専修大学）、小野尚之氏（東北大学）、早瀬尚子氏（大阪大学）、本間猛氏（首都大学東京）、漆原朗子氏（北九州市立大学）、萩原裕子氏（首都大学東京）、保坂道雄氏（日本大学）

なお、第15期編集委員会の1期目の委員である岡田禎之氏は事務局長就任のため2013年9月30日に退任します。そのため、当初の予定よりも1名多い11名を改選しました。第15期編集委員会の2期目の委員である北原久嗣委員、時崎久夫委員、蔵藤健雄委員、家入葉子委員、吉村あき子委員、宮本陽一委員、星宏人委員、田中智之委員、遠藤喜雄委員は2013年9月30日に、現編集委員長伊藤たかね委員は2013年11月30日に退任します。

◇ 2012年度*EL*研究奨励賞受賞論文の決定について

*EL*29 巻に掲載された Article 6 編 (Syntax 3, Semantics/Syntax 1, Syntax/Second Language Acquisition 1, Pragmatics 1)、Brief Article 1 編 (Historical Linguistics 1) のあわせて7編の中から、1 次審査通過論文として選定された Article 4 編 (Syntax 2, Syntax/Semantics 1, Syntax/Second Language Acquisition 1) について、編集委員長、副委員長を含めた6名の最終選考委員により最終審査が行われ、以下の1編（分野：Syntax）を受賞論文として決定しました。

北田伸一：“A Theory of Linearization and Its Implication for Boundedness of Movement”

◇ *English Linguistics* 第30巻1号 (2013年春号) の刊行について

EL 30巻1号（春号）が刊行されました。Invited Article 1編、Article 4編、Brief Article 2編、Notes and Discussion 2編、Articles on a Specified Topic 5編、Review Article 1編、Review 8編が掲載されています。

◇ *English Linguistics* 第30巻2号（2013年秋号）の編集について

2013 年 4 月 1 日締め切りで投稿された一般論文の総数は 9 編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 6 編 (Syntax 2, Syntax/Semantics 3, Syntax/Historical Linguistics 1)、Brief Article 2 編 (Syntax 2) 、N&D 1 編 (Syntax 1) でした。また、「4 ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Brief Article 1 編 (Syntax 1)でした。

以下の表は、*EL* 30 巻 2 号に掲載される慫慂による Review Article および Review も含めた審査結果(2013 年 7 月 15 日現在)です。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	6	1	3	0	2
BA	2	2	0	0	0
N&D	1	1	0	0	0
RA	0	0	0	0	0
Review	7	6	0	1	0
４ヶ月書き直し					
AR	0	0	0	0	0
BA	1	1	0	0	0
合計	17	11	3	1	2

上記以外に「特集テーマ : Deletion Phenomena in the Minimalist Program」のもとで「特別企画 2012」の事前審査 (2012 年 12 月 15 日締め切り) に応募され、事前審査通過後 2013 年 4 月 25 日に一括投稿された論文 (Brief Article 相当論文 4 編と Introduction) が審査の結果第 30 巻 2 号に掲載される予定です。また，招待論文 3 編（うち 2 編は昨年の第 30 回記念大会でお招きしたゲストスピーカーのワークショップにおける発表に基づくもの）が掲載されます。

◇ *English Linguistics* 第31巻1号（2014年春号）への投稿について

2014 年 6 月発行の *English Linguistics* 第 31 巻 1 号の応募締め切りは、2013 年 9 月 20 日（金）24 時（必着）です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成してネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇「特別企画 2013 : 特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、*EL*31 巻の編集に向けて、本年度も「特別企画 2013 : 特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2013 年 12 月 16 日です。6 月初旬には公募案内が学会 HP に記載されていますのでご覧の上、ご応募ください。

大会運営委員会より

◇第 31 回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には 58 篇の応募があり、審査の結果、45 篇が採用されましたが、1 件辞退があったため、本大会では 44 篇の研究発表が行われることになりました。

◇　第6回国際春季フォーラム報告

第6回国際春季フォーラムは、2013年4月27日（土）・28日（日）の両日、東京大学本郷キャンパスにおいて開催されました。今回のフォーラムでは、4つの招待講演、19の口頭発表、7つのポスター発表が行われました。170名（会員144名、非会員26名）の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支えてくださった開催校の今西典子先生をはじめとする開催校委員の先生方と学生の皆さん、島　越郎実行委員長をはじめ大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心よりお礼申し上げます。

広報委員会より

◇　委員の交代について

会則（2011 年 4 月 1 日施行）にもとづいて、2013 年 3 月 31 日に大室剛志氏、藤井友比呂氏がご退任になりました。また、同年 4 月 1 日より、天沼実氏（宇都宮大学）、澤田茂保氏（金沢大学）が留任（2 期目）、五十嵐義行氏（副委員長　東京国際大学）、川原功司氏（名古屋外国語大学）が新委員として選出され、天沼氏が委員長として選任されました。委員の任期は 2 期（1 期は 2 年）です。尚、昨年度一期目委員をお務めの田中裕幸氏（関西学院大学）が 2013 年度 4 月 1 日より事務局に異動されるため 2013 年 3 月 31 日付でご退任になったことに伴い、後任として中川直志氏（中京大学）が選出され、田中氏の残任期間（2015 年 3 月 31 日まで）をお務めいただくことになりました。

学会賞委員会より

◇　新人賞と学会賞（論文）の応募状況

2013 年度の新人賞と学会賞（論文）は 5 月 31 日に締め切られました。有資格者の 2012 年度 *EL* 研究奨励賞受賞者から、新人賞に 1 件の応募がありました。応募論文の領域は統語論です。現在選考委員会において厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年 11 月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

◇　学会賞（著書）の応募状況

5 月 31 日に締め切られた 2013 年度の学会賞（著書）には 4 件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は 2 年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は 4 件とも受理されました。応募著書の領域は、統語論 2 件、意味論 2 件です。1 次審査と最終選考の 2 段階選考で、現在、厳正に審査が行われており最終選考結果は本年 11 月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

日本英語学会 2012年度 会計報告 ならびに 2013年度 予算計画

以下　省略

JELS の配布方法の変更について

JELS は、これまで冊子媒体で作成し、*JELS*28 より会員全員に配布してきましたが、経費削減のため、今年度発行の *JELS*31 より、CD-ROM として会員全員に配布することが理事会と大会運営委員会で決定されました。尚、冊子は希望者のみ購入できる形となります。詳しくは、同封の案内をご覧ください。

言語系学会連合について

今年度は以下のような運営体制であり、日本英語学会から理事の外池滋生氏が副委員長をつとめられております。また、来年度は大庭幸男会長が委員長となる予定です。

【運営委員】（委員長担当学会順：任期は 2013 年 4 月より 1 年間）
野田尚史（委員長、日本語教育学会）
外池滋生（副委員長、日本英語学会）
Stephen Brown（全国語学教育学会）
窪薗晴夫（日本言語学会）
金水　敏（日本語学会）

【監査委員】
小塚暁絵（全国語学教育学会）（学会として 2012 年 4 月より 2 年間担当）
小林正人（日本言語学会）（学会として 2013 年 4 月より 2 年間担当）

【事務局】（任期は 2013 年 4 月より 1 年間）
三宅和子（事務局長、日本語教育学会）
横溝紳一郎（日本語教育学会）
池谷貞夫（日本語教育学会）

詳細は、言語系学会連合ホームページ http://www.nacos.com/gengoren/index.html をご覧ください。

事務局より

○　会員数について

2013年3月31日現在の会員総数は、1,563名です。

○　会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。**2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。**

○　学生会員登録について

学生会員登録には継続手続きが必要です。指定された期日までに手続きをしない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

今年度の手続きは、2013年4月25日（木）に締め切りました。

手続きの方法については、日本英語学会ホームページをご覧ください。

○　日本英語学会からの各種お知らせについて

研究発表応募規定、*EL*投稿規定、学会賞・新人賞の応募規程等が改定される場合には、ニューズレターとホームページにてお知らせいたします。特に、ホームページには最新の情報が掲載されますので、定期的に閲覧することをお勧めします。

○　*EL* への論文投稿に関するお願い

EL に論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております投稿規定をよく

お読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「投稿論文の *EL* 掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

JELS や所属機関の working papers 等に掲載された研究（の一部）を発展させて *EL* に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3 人称表現をご使用ください。

○　*EL*掲載論文の再録やレポジトリーへの登録に関するお願い

*EL*に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL*に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本英語学会事務局あてお知らせください。

また、最近、各大学で「学術情報レポジトリー」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつあり、*EL*に掲載された論文をそれに登録したいとのご希望が寄せられています。日本英語学会では、発行後**2年**以上経過した論文の登録をお認めしています。この場合も日本英語学会事務局あてお知らせください。

*EL*論文の再録やレポジトリー、アーカイブへの登録をご希望の場合の連絡先のメールアドレスは、以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

○　*JELS*掲載論文の再録・登録に関するお願い

*JELS*掲載論文についても、再録、および学術レポジトリーや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL*掲載の論文と同様に、事前に事務局までEメールでお申し出ください。

*JELS*掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリーなどへの掲載をお認めしています。

連絡先のメールアドレスは以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

○　*EL*公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で *EL*を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。*EL*がより多くの研究者に知られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

○　電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、*EL*への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡することが通常の状態になっています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構・日本英語学会会員管理担当（elsjkaiin@asas.or.jp）にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

連絡方法については、学会ホームページをご覧下さい。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。万一、返信の未着あるいは遅着にて、行き違いが生じました場合には、ご容赦お願い申し上げます。

○ 外部査読者登録（更新）のお願い

「*English Linguistics* 外部査読者登録のお願い（2013-2014）」を事務局から送信いたします。今年の8月下旬から9月上旬にかけても、登録のお願いを送信する予定でおります。外部査読者登録制度への会員の皆様のさらなるご支援をお願いいたします。

○　親と子の部屋について

今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は、同封の「親と子の部屋利用案内」をご覧のうえ、事務局までご連絡下さい。

編集後記

前稲田俊明会長のもとで、1 年間の事務局長補佐と 2 年間の事務局長、ならびに現大庭幸男会長のもとで 5 カ月間事務局長を務めさせていただきましたが、8 月末で任期を終えます。在任期間中は、自らの未熟さと適性の無さを痛感してばかりでした。皆様方に多くの御迷惑をおかけしましたことをお詫びするとともに、皆様方のご理解とご寛容に対し、厚くお礼申し上げます。

9 月 1 日より、事務局長補佐をつとめられた岡田禎之氏が事務局長に就任され、以下の陣容の事務局となります。

事務局長：岡田禎之（大阪大学）
編集委員会・理事会書記：
田中裕幸（関西学院大学）
岩崎真哉（大阪国際大学）
大会運営委員会・評議員会・広報委員会書記：
南　佑亮（神戸女子大学）
財務・国際春季フォーラム書記：
吉本真由美（大阪大学）

厳しい財政状況の中、新事務局は今後様々な工夫を迫られております。皆様、会費納入等どうぞよろしくお願い申し上げます。今後の日本英語学会の発展を心より願っております。

（西岡宣明）

2013 年 8 月 25 日発行
編集・発行　日本英語学会
代表者　大庭　幸男
発行所　日本英語学会
http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/
〒113-0023
東京都文京区向丘 1-5-2
開拓社内
電話 (03) 5842-8900